

設計と施工が一致団結し、お客様の理想とする家をお届けしたい。



床は全室ともローズブラックで統一。最近出た新色で、焦げ茶よりもさらに黒に近く、引き締まった印象を与えます

美しいばかりでなく
暮らしやすいデザイン

昨年5月、龍ヶ崎駅目の前にオープンした、Beハウス・ハウジングサロン龍ヶ崎。チーフデザイナーの須藤雅樹さんは33歳ですが、現場監督および設計など建築に携わり13年のキャリア。さらに弟の直樹さんが棟梁を務め、設計と現場が密接に連携している強みも、「決して無理押しはせず、純粹に、お施主様に合う家を建てていきたい」というポリシーで仕事に臨んでいます。

今回のお客様の今泉さんは「限られた予算の中で、ありきたりではなく、自分のイメージ通りの家を造りたい」と考えていました。そこで原価公開と完全自由設計のBeハウスを選ばれたのです。

◆**今泉**●この家は、玄関を入ったときの印象がグッと来ました。デザインだけでなく、立地条件や僕らのライフスタイルなども考慮されている。階段も格好良く仕上がって、とても気に入ります。

須藤●最近の主流として、階段が大きな見せ場になっていきます。こういうモダンなデザインでは鉄骨の階段をご提案することも多いのですが、鉄骨だと玄関から階段の裏側が見えたとき、金具や溶接部分が気になつてしまう。だからあえて木の階段をお薦めしました。

今泉●子供が生まれたばかりなので、手すりも付けたいと思つて急に追加したのですが、それもきちんと対応してくれました。

須藤●この階段は、何度も現場へ来てイメージを膨らませました。デザインを邪魔しない手すりしようと思つて見ました。**今泉**●雑誌などで見て、外壁は絶対にガルバリウムだ。でもそれだけでは冷たい雰囲気になるので、違う部分も入れたかった。**須藤**●そこで木調サイディングをアクセント的に使いましたよと。

今泉●色合いとバランスはほとんどイメージ通り。僕らは服の趣味でも茶とか紺とかダークなトーンが好きなので、とにかく色にはこだわりました。

須藤●確かに色では悩みましたが、方針がブレないので助かりました。普通はだんだん難しくなりがちで、そうするとやっぱり印象の薄いものになってしまう。

今泉●須藤さんは年齢が近いのでセンスが合うというか、話を聞いていてスッと頭に入ってくる。

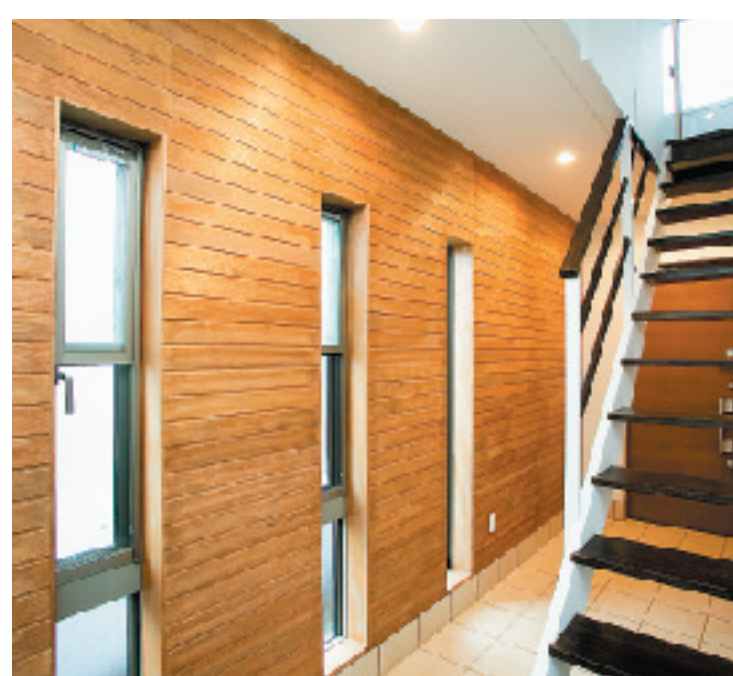
須藤●ご主人はご自分のイメージをしっかりと持っていて、それが僕には分かりやすかったです。僕の方からも伝えやすかったです。だから仕事が楽しかったですね。**今泉**●営業マンの人が相手では話が合わないし、楽しくない(笑)。

須藤●地域密着の設計事務所所兼工務店として、お客様との一線をわきまえた上で、なるべく堅苦しくなくお付き合いできればと思っています。

(取材/池田充雄)



(左)玄関側からのアングルが、特にご主人のお気に入りです
(中)今泉邸。外壁は濃紺のガルバリウム鋼板と、白の木調サイディングを使用。色・バランスとも、ご主人のイメージ通りに仕上がりました
(右)南側の高台からは田園風景が広がり、目を遮るものは一つありません。特にウッドデッキからの眺望は最高です



(左)北側の道路に面した部分には居室を設けず、玄関ホールと階段用のスペースにしたためプライバシーが守られ、車の騒音も入らなくなりました
(右上)玄関ホールの壁は質感が良く、調湿効果もある米ツガの無垢材。外壁も厚みのあるものを使っています
(右下)お子さんが生まれたばかりの今泉さんご夫妻と、須藤チーフデザイナー(左端)